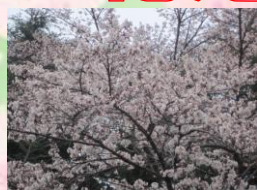


# お花見

## 3月30・31日

### 4F:別府公園



4階の皆さんは別府公園に行きました。少し風が冷たく肌寒かったのですが、桜は満開でとても気持ちのよいお花見となりました。お弁当も美味しく頂きました。

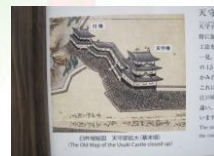
外出行事(ドライブ)



4階入居者様14名参加  
5・6・7階入居者様16名参加



### 5・6・7F:臼杵城址公園



5・6・7階の皆さんは臼杵城址公園に行きました。天候にも恵まれ絶好のお花見日和でした。桜祭りの最中で出店もあり、久々にお祭り気分になりました。



#### 臼杵城跡

丹生島城・巨亀城とも呼ばれる。築城当時は丹生島と呼ばれる孤島上の城郭で、周囲の海が天然の要害となり、堅固な守りを誇っていた。キリシタン大名として有名な大友宗麟の居城であっただけに、石垣にはアルファベットの様な文字が刻まれ、城内には礼拝所が、城下にはノビシャドと呼ばれるキリシタンの修練所があったという。大友氏の滅亡後、江戸時代には稲葉氏の居城として修築が重ねられ、一時は34の櫓・三層四階の天守台があったと伝えられる。現在は2つの櫓と書院の庭園の一部、石垣などを残すだけで、丹生島も埋め立てによって陸続きとなっている。

サクラの名所としても有名。◎大友宗麟(1530-87)豊後大友氏二十一代の大名。一時、九州の北6カ国を支配。キリシタン大名としても有名。臼杵で洗礼を受け、ドン・フランシスコという。◎大友吉統(1558-1605)豊後大友氏最後の大名(二十二代)。秀吉の朝鮮出兵で、3番手の黒田長政の指揮下に入る。退却を急いで隊を乱し、文禄2年、秀吉に国を奪われ幽閉の身となる。



## 3月3日

### ひな祭り



ご機嫌です



雛人形と一緒に



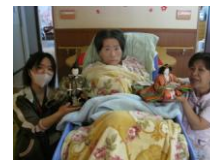
5・6階では生け花をしました



思いおしいお花を生けていらしゃいます



句会の様子です



季節の行事

早春の梢に  
鴉寄り添える  
みやびなる  
おもいにかえる

5・6・7階では句会が催されました。とてもすばらしいので御紹介させていただきます。



俳句の得意な入居者様による講習です



甘酒を頂きました

さんふらわあ  
巨体の消える  
春の霧  
海の邊の  
館に奈良の  
雛記る  
おびゆるみ  
春来にけらし  
グローバル  
おひなさま  
ながいきし  
すぎてり  
(百歳歳)

### 雛祭り 互知鑑

3月3日は「上巳」「桃の節句」などと言われ、厄を人形に移して祓った「流し雛」の風習がありました。それらが発展し、雛人形を飾り女の子の健やかな成長と幸せを願う現在の「雛祭り」となりました。

女の子が産まれて初めての節句を「初節句」といい、嫁方の親が子供の身代わりとなって災が降りかからない様に、という思いが込められた雛人形を贈ります。雛人形には、厄除けとなる「桃の花」、体から邪気を祓う為の「お白酒」、よもぎの香気が邪気を祓うといわれる「草もち」、人の心臓をかたどり子供の健康を祈る親の気持ちの現れの「ひし餅」、自分のかたわれでなければ絶対に合わないことから、女性の貞操を教えた「蛤(はまぐり)」などが供えられます。

また、ひし餅や雛あられに見られる白・青・桃の3色はそれぞれ、雪の大地(白)・木々の芽吹き(青)・生命(桃)を表しており、この3色のお菓子を食すことで自然のエネルギーを授かり、健やかに成長できるという意味があります。